

第6回持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム(ISAP2014)
分科会2: アジアでのレジリエント都市の構築: 理論から実践へ

気候変動と自然災害を考慮したレジリエント都市の概念・施策・評価指標の構築

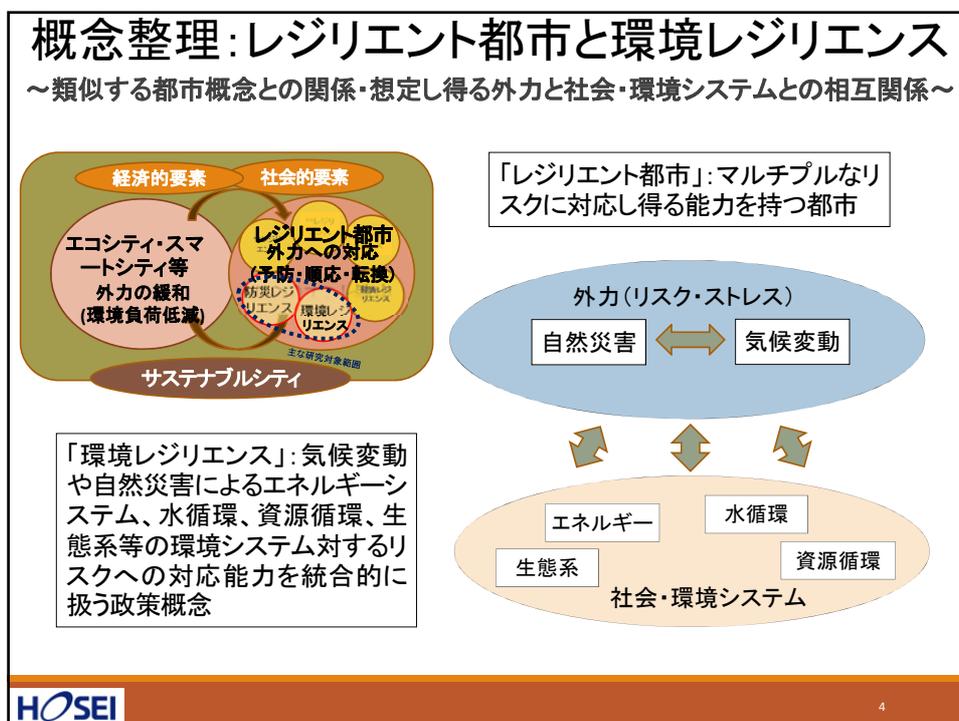
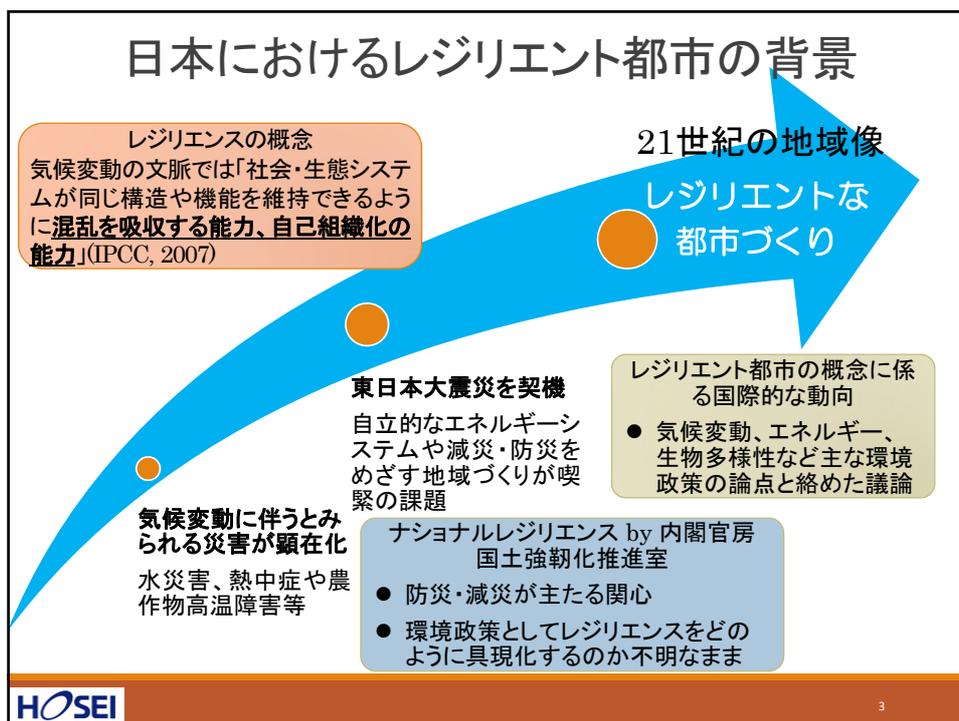
2014年7月23日

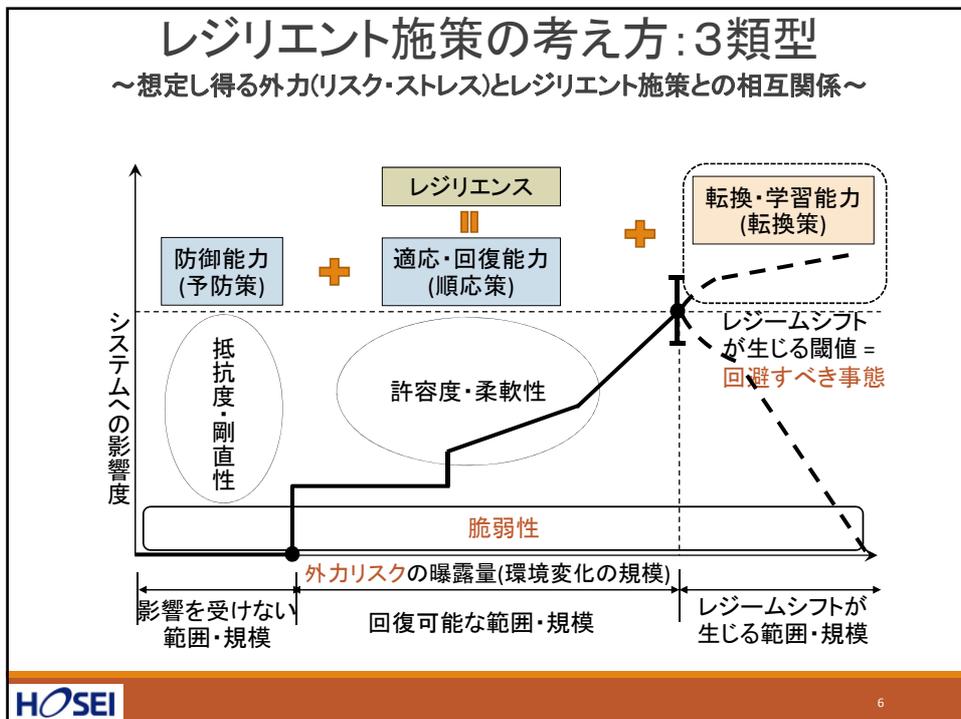
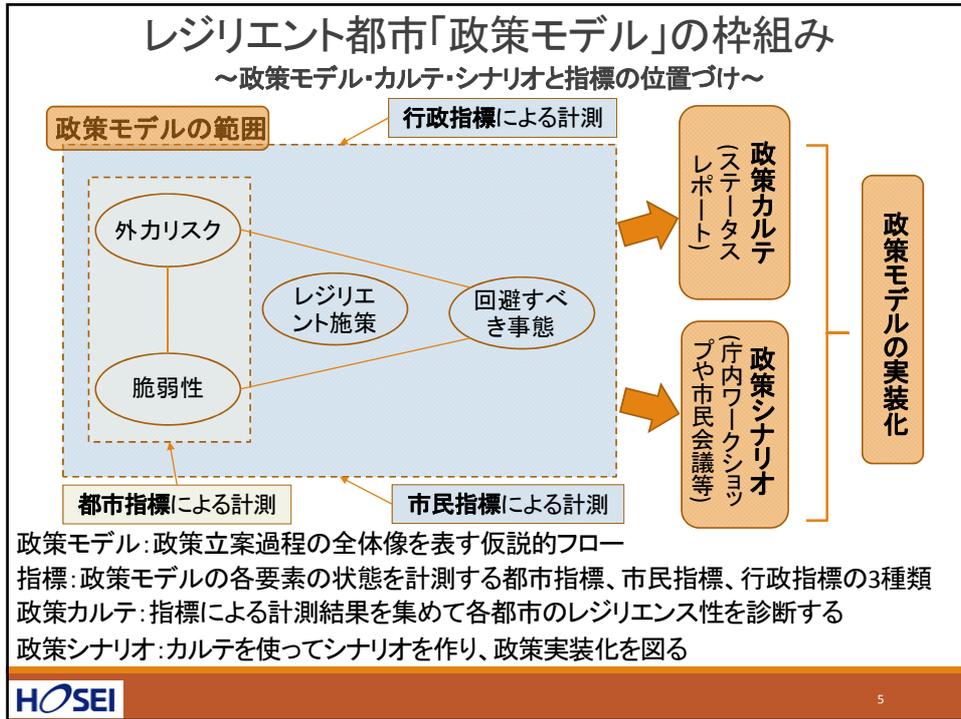
馬場健司・田中充(法政大学)

1

報告内容

- 日本におけるレジリエント都市の背景
- 概念整理: レジリエント都市と環境レジリエンス
- レジリエント都市「政策モデル」の枠組み
- レジリエンス指標・施策の考え方と試行的計測～政策モデル・カルテ・シナリオ～
- まとめと今後の展開





HOSEI レジリエント指標の考え方

～3つの指標の分類と各指標の役割・性格～

- 1. 都市指標: 都市のレジリエンス度(状態)を把握・測定**
 - 自治体担当者と専門家が、当該都市の物理的なインフラや経済活動と環境要素などの状態に係るレジリエンス性を把握・評価する
 - 国勢調査等の定量的統計データ
- 2. 行政指標: レジリエンス施策の実施状況を把握・測定**
 - 自治体担当者と専門家が、既往の施策の有無や程度、進捗度をチェックし、当該都市のレジリエンス性の向上につながるか否かを把握・評価する
 - 行政質問紙調査データ + 公表されている行政計画等の資料を補完的に追加
- 3. 市民指標: 市民のレジリエンス度(状態)の把握・測定**
 - ステークホルダーや市民と専門家が、知識・意識、学習・訓練、社会関係資本などの市民生活と環境要素の状態に係るレジリエンス性を把握・評価する
 - 市民質問紙調査データ + JGSS等の統計データを補完的に追加
- 4. 統合化の試み**
 - 政策カルテを基に、他都市やアクター間での評価の共通点と相違点について検討し、レジリエンス性の統合的な評価を試みる

7

レジリエント施策・指標の試行的計測

～事例都市におけるレジリエンス3指標の適用と政策カルテ～

政策カルテの趣旨
 4つの政策モデルの要素を3つの指標により評価し、他都市等との比較により、レジリエントシティの具現化に向けて必要な事柄について各アクターの理解を促す

- ① 外カリスク
- ② 地域社会の脆弱性
- ③ 地域社会において回避すべき事態
- ④ レジリエント施策の状況

- ・都市指標
- ・行政指標
- ・市民指標

↑ 仙台市の都市指標による外カリスクの評価

← 仙台市の行政指標による外カリスクの評価

8

まとめと今後の展開

- 政策モデル; レジリエント施策の準備・実施状況と、これを決定する3つの要素(外カリスク、脆弱性、回避すべき事態)
- レジリエント施策; 外カリスクの暴露量に応じた3つの能力と施策(防御能力[予防策]、適応・回復能力[順応策]、転換・学習能力[転換策])
- レジリエンス指標; 100以上の行政指標、市民指標、都市指標の設定による上記の3つの要素やレジリエント施策の状態の計測 ⇒ 結果をカルテへ集約化
- 政策シナリオ; カルテを題材とした庁内ワークショップによる部局間のフレーミングギャップの共有化、市民会議による市民とステークホルダー、行政間でのフレーミングギャップの共有化 ⇒ 施策の実装化への足掛かり

ご静聴ありがとうございました！

お問い合わせは...

kenshi.baba.44@hosei.ac.jp

謝辞; 本研究は、平成25年度環境省環境研究総合推進費「レジリエントシティ政策モデル」の開発とその実装化に関する研究により実施された